

【実包管理帳簿記載例】

年	月	日	使用銃 (銃番号等)	摘要	散弾実包 ライフル実包			散弾実包 ライフル実包			散弾実包 ライフル実包			散弾実包 ライフル実包			散弾実包 ライフル実包			合計 残弾数 (個)
					適合実包			適合実包			適合実包			適合実包			適合実包			
					散弾・単弾		名称 ()	散弾・単弾		名称 ()	散弾・単弾		名称 ()	散弾・単弾		名称 ()	散弾・単弾		名称 ()	
					(12 番)	()		(12 番)	()		(410 番)	()		(12 番)	()		(番)	(308Win)		
					受	払	残	受	払	残	受	払	残	受	払	残	受	払	残	
RX	9	1	－	自宅保管 残弾			0			0			0			0			0	0
	10	16		〇〇銃砲店・無許可譲受	50		50				50		50	50		50	25		25	175
	10	17	A	〇〇射撃場、猟期前練習								25	25							150
	10	17	C	〇〇射撃場、猟期前練習	狩猟の用途に供する各猟銃について、 それぞれ猟期前練習を行わなければ ならない。													10	15	140
	10	17	D	〇〇射撃場、猟期前練習											10	40				
	10	17	D-1	〇〇射撃場、猟期前練習		25	25													105
	11	15	A	〇〇県〇〇市〇〇地区 狩猟、カモ1羽								3	22							102
	11	16		〇〇銃砲店・許可譲受				100		100										202
	11	16	B	〇〇射撃場、標的射撃					75	25										127
	11	17	C	〇〇県〇〇市〇〇地区 狩猟、シカ2頭														2	13	125
	11	18	D	〇〇県〇〇市〇〇地区 狩猟、イノシシ1頭											2	38				123

◆その都度記載すること◆最終の記載をした日から3年間保存すること◆保管数は800個を超えてはならない◆

備考 1 使用銃の欄には、使用した猟銃が特定できる内容（銃番号、許可番号、替え銃身等）を記載すること。

2 摘要の欄には、実包の消費場所や購入場所等（製造）を記載すること。

・標的射撃の場合は、当該標的射撃を行った射撃場の所在地及び射撃場名を記載すること。

・狩猟の場合は、当該狩猟を行った山野等に隣接する村落名等（メッシュ番号等）を記載すること。

3 適合実包の欄には、散弾実包又はライフル実包の別を記載すること。

・散弾実包であれば、散弾又は単弾の別及び番径を記載すること。

・ライフル実包であれば、その名称を記載すること。

4 指定射撃場等において実包を消費したときは、帳簿に射撃場のスコアカード等の書面を添付すること。

5 凡例を示して、書き分けることも可能。

下線部は、R7.3.1の法改正
により追加された項目

凡例		
記号	名称	所在地、銃番号等
A	散弾銃 単身自動式（410番）	銃番号〇〇〇〇〇 or 許可番号123456790
B	散弾銃 上下二連（12番）	銃番号〇〇〇〇〇 or 許可番号123456791
C	ライフル銃	銃番号〇〇〇〇〇 or 許可番号123456792
D	特定ライフル銃	銃番号〇〇〇〇〇 or 許可番号123456793
D-1	特定ライフル銃（散弾銃銃身）	銃番号〇〇〇〇〇 or 許可番号123456793
—	〇〇射撃場	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番〇〇号
—	〇銃砲火薬店	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番〇〇号

備考 1～3

銃刀法規則第87条第1項（帳簿）

備考 4

銃刀法規則第87条第3項（帳簿）